

令和6年度(2024年度)建設常任委員会管内視察の概要

1 視察日 令和6年(2024年)11月15日(金)

2 視察者 建設常任委員会(7名)

竹崎和虎(委員長)、池永幸生(副委員長)、瀧上陽一、
前田憲秀、楠本千秋、坂梨剛昭、星野愛斗

3 視察の概要

(1) 中九州横断道路(上生川橋下部工現場)

本道路は、大分市と熊本市を結ぶ地域高規格道路で、整備することによって沿道地域の産業発展、地域活性化はもちろんのこと、災害時においても地域の安全、安心に大きく貢献することが期待されている。

今回の視察では、中九州横断道路の一部を形成する「大津熊本道路」の整備状況について、事業者である国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所や施工業者から現場で説明を受けた。

熊本河川国道事務所からは、大津熊本道路については、合志インター～熊本間で工事に着手しており、用地は面積ベースで約70%買収(R6.10月末)が完了し、買収できた箇所から工事を進めている。地元の協力を得て円滑に進んでいるとの説明があった。

施工業者からは、現在の建設業界が抱える担い手不足へ対処するため、採用間もない技術者を積極的に現場に従事させて育成を図っている、DXの活用として設計図面や完成イメージを基にした映像をAR(拡張現実)により実際の現場に重ねて、完成イメージ等を確認できる取組を行っている、また、作業員休憩所をソーラーハウスにして、快適性や環境にも配慮しているとの説明があった。



(2) 半導体産業集積地周辺道路

セミコンテクノパークなど菊池南部地域においては、今後も半導体関連企業の更なる集積が見込まれ、円滑な半導体サプライチェーンの確保はもとより、就業者や県民生活の質を担保する上でも、渋滞の緩和に向けた取組の推進は、本県にとって喫緊の課題となっている。

今回の視察では、交通渋滞解消に向けた抜本的対策として、短期集中的に進めている道路整備の進捗状況等について、県北広域本部から2つの箇

所で説明を受けた。

国道387号・大津西合志線交差箇所付近の説明箇所では、県は、合志市施行の土地区画整理事業と連携して、周辺道路の歩道設置や交差点改良により、歩行者の安全性向上と自動車交通の円滑化を図っている、また、国道387号須屋地区で進めている4車線化事業については、測量、設計を進めており、詳細な計画が出来上がり次第、事業説明会を実施したいとの説明があった。

次に、県道新山原水線の現場では、当路線については、工事が順調に進み、令和8年度の供用予定である、大津植木線の合志ICアクセス道路、多車線化については、今年9月に事業認可の告示があり、令和10年度の完成目標に向けて早期の工事着工を目指しているとの説明があった。



(3) 熊本西環状道路（池上工区内現場）

本道路は、熊本環状道路の西側部分を構成する延長12.3kmの自動車専用道路で、中心市街地の渋滞緩和や都市圏交通の連携を促す等の効果が期待されている。

今回の視察では、令和7年度開通予定の池上工区の整備状況について、事業者である熊本市から現場で説明を受けた。

池上工区の工事進捗は90%を超えており、開通すれば、国道3号植木バイパスや北バイパスを経由すると、熊本駅から合志市須屋までほぼ信号なしで往来が可能になり、渋滞緩和はもちろんのこと、定時性・速達性の確保、災害時の代替路としても西環状道路の機能が大きく発揮される。

その一方で、TSMCをはじめとした半導体関連企業の進出に伴い、企業集積地と物流拠点である熊本港を早期につなげることも求められているとの説明があった。



(4) 熊本港

当港では、災害時の支援船受入れやコンテナ取扱い荷量の増加へ対応するため、令和6年度から国土交通省の直轄事業において耐震強化岸壁の整備に着手している。

また、県は、令和6年度において、ガントリークレーンを新たに配備し、さらなる港湾機能の強化を図るとともに、高まっている企業用地の需要に応えるため、第二次分譲地の造成に着手している。

今回の視察では、それぞれの整備状況について、国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港事務所及び県央広域本部から現場で説明を受けた。

耐震強化岸壁について、熊本港湾・空港整備事務所からは、皆様のおかげで今年6月に無事に現地着工を迎えることができた、熊本港は超軟弱地盤で、満潮と干潮の差が最大で4.5mもあり、工事施工にあたっては技術的難易度が非常に高い場所であるが、早期完成に向けて工事を進めていきたいとの説明があった。

ガントリークレーン及び第二次分譲地について、県央広域本部からは、熊本港は、中九州横断道路や熊本西環状道路の整備が進み、半導体集積地へのアクセスの向上が期待されている中で、今年8月に八代港とともに特定利用港湾に指定されたことにより、着実な整備と大規模災害時の活用が期待されている、ガントリークレーンは、10月末に岸壁への設置が完了し、今後試運転等を行い、年内の工事完成を予定している。その後は、既設ガントリークレーンも含め2基体制で運用を行っていく、第二次分譲地は、予定している11ヘクタールのうち6ヘクタールを先行して本年度から整備を開始することとしており、10月に周辺道路の工事発注を行ったとの説明があった。

